

越中福岡の菅笠製作技術保存会通信

2010年

No. 3

会長挨拶

菅笠地蔵堂完成

すげがさ号発進

頌春

越中福岡の菅笠製作技術保存会

会長 木村 昭二

幸多き新春を迎えられたこととお慶び申しあげます。

昨年三月に重要無形民俗文化財に認定された後、色々な行事に参加して私達の保存会が、より多くの人達に知られる様になりました。

十月二十三日放送（NHK/BS2）の番組「こんなステキなにつぼんが」で、福岡町の菅笠作りが紹介されました。この放送を見て東京都在住の私の友人が、福岡町の皆様の明るい笑顔が印象的だったという手紙を送ってくれました。この事を、さくら会館での「市長と語ろう！わがまちトーク」の会でも披露致しました。

今年の経済の見通しは必ずしも良好とは云えませんが、毎日を元気に笑顔で仕事に励みたいと思います。

謹白

菅笠地蔵の御堂完成お披露目式が、十二月二十二日火曜日に、行われました。

御堂は、高さ百三十cm、幅六十cm、奥行き六十四cmの、コンクリート製で、地蔵一体をすっぽりと覆う寸法に仕上がっています。

木村会長が、菅笠地蔵の被っていた角笠を真新しい角笠と交換し、新しい年の準備が整いました。福岡幼児学園の年長児十七名が、歌を歌い、御堂の完成を祝いました。



フランス料理店ぱりじょんぬ北側（北陸銀行福岡支店そば）に設置

十一月二十四日より、高岡市公営バスの新車両「すげがさ号」が、福岡町内を走っています。もう、ご覧になった方も多いいのではないのでしょうか。

花笠、三度笠、市女笠、角笠が描かれた「すげがさ号」には、ところどころに、ピンク色の桜の花があしらわれ、可愛らしい仕上がりになっています。一度、乗車してみてくださいいかがでしょうか。



お正月飾り

菅笠を活用して考案された正月飾りが、「雅楽の館」と「駅の楽市お待ち堂」で販売されました。今年で、8回目となりますが、水引で作った鶴や花のほか、松竹梅や凧、こまの飾りが、毎年好評で、店内は、新年を迎える準備で賑わっていました。



スゲ草考案

赤丸地区で恒例の前句の発表会が、開催されました。発表者の中に、スゲ草を編み込み、前句の色紙台として歌詠みされた方が、いらっしやいました。当会としては、その色紙台を新年度事業として取り組み、菅細工のひとつとして商品化したいと、考えています。

菅笠作り最盛期

菅笠作りにおいて、一番重要なポイントは、湿気。スゲは、乾くと折れたり割れたりします。作業前にはスゲを一晩水にひたしておきますが、作業中もぬれたタオルを当てたり、霧吹きをしたりします。冬は、適度な湿気があるので、スゲが柔らかくなり、作業がしやすいため、今がまさに笠縫いの最盛期です。

菅笠三二知識③

菅笠に使われるスゲ草は、カヤツリグサ目カヤツリグサ科スゲ属に属し学名を「カサスゲ」といいます。世界中で二千種、日本には約三百種のスゲ属の植物があり、中国では靴に入れて防寒用とするスゲの種類もあります。



ご挨拶

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

- 会長 長木村 昭二 理事 宮崎 光子
- 副会長 日和 祐樹 〃 城山 孝
- 理事 岸野 有三 監事 中川 正一
- 〃 山岸 信一 会計 米澤アヤ子
- 〃 寺島 富子

編集後記

昨年、縁があつて、保存会の担当をする事となり、町一円を訪問する機会を与えられました。

とある某会員さんから、この仕事をやるからには、軽率な気持ちで受けないう事、又、普段外回りをしても心配りをしていて欲しいとの願ひを諭されました。

担当になつて、はや半年が過ぎました。その願ひをいつも念頭に置き、今日に至っております。

越中福岡の菅笠が日陰から除々に日に当たりつつありますが、技術者及び関係者の方々には、より一層のご協力を頂き、新年度も頑張っていきたいと思っております。

会員の皆様、何卒、宜しくお願ひ申し上げます。
(糸岡・島山)